本資料に使われている社名、商標、登録商標はそれぞれの所有者に帰属するものです。定格、仕様は予告なく変更する事があります。

ALINCO アルインコ株式会社 電子事業部

東京営業所 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番21号 八重洲セントラルビル4階 TEL.03-3278-5888
大阪営業所 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階 TEL.06-7636-2361
福岡営業所 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目3番6号 第3博多偕成ビル7階 TEL.092-473-8034

アフターサービスに関するお問い合わせは

お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120 0120-464-007

全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。
受付時間／10:00～17:00月曜～金曜（祝祭日及び12:00～13:00は除きます）
ホームページ　http://www.alinco.co.jp/ 「電子事業」をご覧ください。

PS0617

ALINCO

HF ALL MODE TRANSCEIVER

DX-SR8J

クイックマニュアル

この度はアルインコのトランシーバーをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

このマニュアルは、英文取扱説明書の抜粋の翻訳と無線局免許の申請の際の注意事項を記載したものです。詳細については英文取扱説明書をお読みください。

本機は日本国内専用モデルですので海外では使用できません。
この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

ALINCO アルインコ株式会社

安全上のご注意

この説明書では、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。本文中のマークの意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

[表示の説明]

表示	表示の意味
⚠ 危険	"誤った取扱いをすると人が死亡する、または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定されること" を示します。
⚠ 警告	"誤った取扱いをすると人が死亡する、または重傷を負う可能性があること" を示します。
⚠ 注意	"誤った取扱いをすると人が傷害※1を負う可能性、または物的損害※2のみが発生する可能性のあること" を示します。

※1：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。
※2：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害をさします。

[図記号の説明]

図記号	図記号の意味
⃠	禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。
❗	必ず実行していただく「強制」内容です。 具体的な強制内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。
（電源プラグ）	電源プラグを必ずコンセントから抜いていただく「強制」内容です。 具体的な強制内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。

本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因にて通信などの機会を失ったために生じた損害などの純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

アフターサービスについて

■保証書

保証書には必ず所定事項（ご購入店名、ご購入日）の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

■保証期間

お買い上げの日より1年間です。
正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。
保証書の規定にしたがって修理いたします。

■保証期間が経過した場合

お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料で修理いたします。

アフターサービスについて、ご不明な点はお買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。

■製造中止製品に対する保守年限に関して

製造中止製品に関しては、下記の一定期間保守部品を常備しております。しかし、不測の事態により在庫が無くなる場合もあり、修理が行えないこともありますのでご了承願います。

＊補修用部品の保証期間は、製造中止後5年です。

[50W申請用]

TSS株式会社

担当者　　　　　　　　　　　　殿

アルインコ製、DX-SR8J型トランシーバーを50[W]に改造して保証認定を受けたいので、この書類を添えて出願します。

出願者氏名　　　　　　　　　　印

住所

1. 50Wへの改造方法

CPU 50W切り換え用ランド（I）を半田ジャンパーする事により送信出力を50[W]とした。

2. 各バンドの送信出力の測定結果　　電源電圧 13.8[V]にて

上記 1. による改造後に測定した送信電力を下表に示します。
測定方法：○○○○○社製 通過電力計にダミー・ロードを接続して測定。

周波数帯 [MHz]	送信出力 [W]	周波数帯 [MHz]	送信出力 [W]
1.9		14	
3.5		18	
3.8		21	
4.63		24	
7		28	
10			

※資格により申請出来ない周波数がございますので、ご注意ください。

以上、内容に誤りの無い事を証明します。

申請者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

無線機の取扱いについて

⚠ 危険

●DC電源コード接続の際は、極性を間違えないように十分注意してください。
火災・感電・故障の原因となります。赤の配線はプラス（＋）極、黒の配線はマイナス（－）極です。

●この製品の電源電圧はDC13.8 Vです。
DC13.8 V±15%を超えるDC電源や大型車などのDC24Vには接続しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

●送信時には大きな電流が流れますので、必ず付属の電源ケーブルを使ってください。
火災・感電・故障の原因となります。

●もし、内部からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗い流すこと。
そのままにしておくと、皮膚がかぶれる原因になります。

●内部からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること。
そのままにしておくと、目に傷害が起きることがあります。

⚠ 警告

●分解・改造・修理しないこと。
取扱説明書に記載されている場合を除き、ケースなどを外し、内部にふれることはさけてください。
火災・感電・けがの原因になります。（改造は電波法違反になります。）

●屋外や浴室など、水のかかる場所に置かないこと。水などをかけないこと。

水場での使用禁止

●周りにコップや花びんなど、液体の入った容器を置かないこと。
液体がこぼれて内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。
●水がかかった場合、電源プラグをコンセントから抜いてください。
●また、湿気の多い場所では使用しないでください。
湿度の高い所や、冷たい所から急に温かい所へ移動しますと、製品に露がつく場合があります。露がつくと製品の動作に悪影響を与え、故障の原因になりますので、よく乾燥させ、露をよく取り除いてからご使用ください。

●航空機内や病院などで使用を禁止された場所では、電源を入れないこと。
電子機器に影響を及ぼす場合があります。

⚠ 警告

●長時間の連続送信はしないでください。
発熱のため本体の温度が上昇しますので、やけどをしないようにご注意ください。

禁止

●電源コードを折り曲げたり、ねじったり、傷つけたり、熱器具に近づけたり、加熱しないこと。

禁止

●DC電源コードを加工したり、ヒューズホルダーを取り除いて使用することは絶対にしないでください。
火災・故障の原因となります。

禁止

●ぬれた手で電源コードに触れないこと。
感電のおそれがありますので、絶対にしないでください。

禁止

●引火性ガスの発生場所では、電源を入れないこと。
発火の原因となります。

禁止

●布や布団で覆ったりしないでください。
熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。

禁止

●自動車など運転中は使用しないこと。
車載型無線機を運転者が走行中に運用する際は、安全運転を最大限優先してください。操作パネルを走行中に注視していると道路交通法違反で罰せられる可能性があります。

禁止

●通信するときは周囲の安全を確認すること。
安全を確認せずに通話すると転倒・交通事故の原因となります。

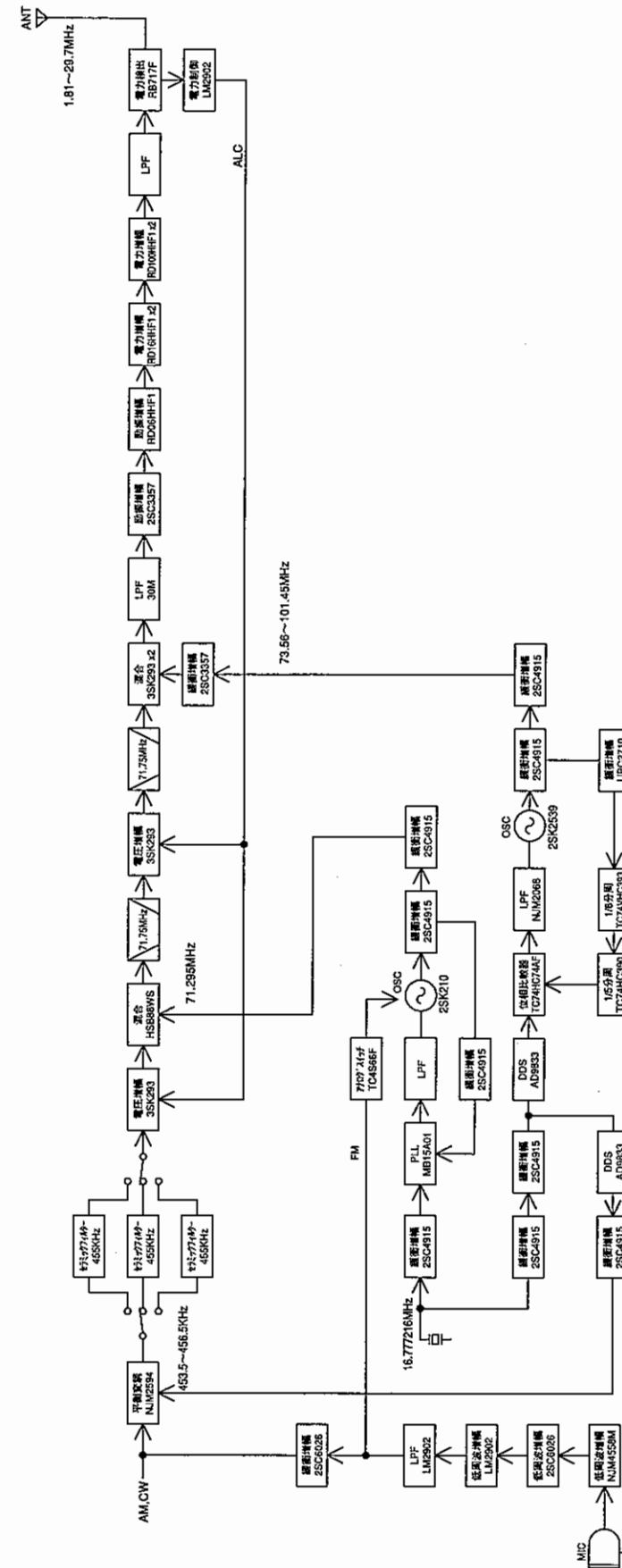
強制

●電源を入れる前に、音量を下げてください。
聴力障害の原因になることがあります。

強制

DX-SR8J 送信機系統図

※ 整理番号

16 工事設計書

装置の区別	変更の種別	技術基準適合証明番号	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	変調方式	終段管 名称個数	終段管 電圧	定格出力 (W)
第 1 送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更		A1A 1.9MHz, 4.63MHz, 10MHz A1A, A3E, J3E 3.5MHz, 3.8MHz, 7MHz, 14MHz, 18MHz, 21MHz, 24MHz A1A, A3E, J3E, F3E 28MHz	平衡変調 低電力変調 リアクタンス変調	RD100HHF1X2	13.8 V	100
第 送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
第 送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
第 送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
第 送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
第 送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
第 送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
第 送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
第 送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
第 送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	

送信空中線の型式		周波数測定装置の有無	☑ 有（誤差0．025％以内） □ 無
添付図面	☑ 送信機系統図	その他の工事設計	☑ 法第3章に規定する条件に合致する。

関東版

⚠ 注意

禁止

●幼児の手の届くところには置かないこと。
けがなど事故の原因となります。

禁止

●磁気カードなどを近づけないこと。
無線機に内蔵されている磁石や磁気を帯びた部品で、フロッピーディスクやキャッシュカードなどの内容が消去される場合があります。

禁止

●湿気やほこりの多いところ、また高温となるところに保管しないこと。

禁止

●直射日光の強い所や炎天下の車の中などに長時間放置しないこと。
発熱・発火・故障の原因となります。
プラスチックやビニールなどが多用されるマイクなどのアクセサリーも熱や日光で劣化しますので注意してください。

禁止

●電子機器に影響を与える場合は使用しないこと。
自動車内で使用した場合、車種によりまれに車両電子機器に影響を与えるものがあります。そのような場合は使用しないでください。
チューナー・テレビなど、他の機器に影響を与えるようなときは、距離を離して設置してください。

禁止

●濡らさないこと。
水などの液体が入ると発熱・感電・故障などの原因になります。使用場所、取扱いにご注意ください。

禁止

●普通のゴミと一緒に捨てないこと。
発火・環境破壊の原因となります。

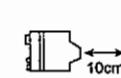
禁止

●オプションの組み込みでケースを開ける場合は、取扱説明書をよくお読みになり行ってください。その際、指定以外の場所には絶対に触れないでください。
火災・感電・故障の原因になります。

⚠ 注意

強制

●アンテナ端子には50Ω系の同軸ケーブルを使用して、50Ωのアンテナを接続してください。
同軸ケーブルやアンテナのインピーダンスが異なっていたり、アンテナの調整が不完全なときには、他の電子機器の動作に影響を与える原因となります。

強制

●放熱をよくするため、壁から10cmくらい離してください。

禁止

●車載用としてご使用する場合、DC電源コードを車のバッテリー端子に直接接続してください。シガーライターソケットへは接続しないでください。
シガーライターソケットは取り出せる電流容量が小さいため、この製品の電源としては不適切です。

危険

●雷に対する保護はなされていません。雷が接近している時や、発生が予想される時は屋外につながるアンテナケーブルや電源コードを無線機から外してください。
雷は直撃以外にもこれらのケーブルに高い電圧がかかり故障を起こす原因になります。

注意

●隣接して駐車した自動車間での交信など、極端にアンテナ間の距離が近い場合、高出力で送信すると相手局の無線機に悪影響を及ぼすことがあります。
極端に近い距離に交信相手がいる時は、お互いにローパワーに切り換えて交信する事をおすすめします。

無線局事項書及び工事設計書

※ 整理番号

1 申請（届出）の区分	☑開設 □変更 □再免許	2 免許の番号	関A第　　　号	3 呼出符号	4 欠格事由 □有 □無

5 申請（届出）者名等
- 氏名又は名称：社団（クラブ）／個人の別 □社団（クラブ） □個人
- 社団（クラブ）局名 フリガナ
- 個人又は代表者名 姓 フリガナ　名
- 住所 フリガナ 都道府県－市区町村コード［　　］
- 郵便番号 －　電話番号　国籍

6 工事落成の予定期日	□日付指定：　．　．　． □予備免許の日から　月目の日 □予備免許の日から　日目の日
※ 免許の年月日	
※ 免許の有効期間	
7 希望する免許の有効期間	
8 無線従事者免許証の番号	
9 無線局の目的	アマチュア業務用
10 通信事項	アマチュア業務に関する事項
12 移動範囲	□移動する（陸上、海上及び上空） □移動しない

11 無線設備の設置場所又は常置場所　フリガナ　都道府県－市区町村コード［　　］

13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力

希望する周波数帯	電波の型式	空中線電力	希望する周波数帯	電波の型式	空中線電力
☑ 1.9M	A1A	100 W	□ 1200M	□3SA □4SA □3SF □4SF □	W
☑ 3.5M	☑3HA □4HA □	100 W	□ 2400M	□3SA □4SA □3SF □4SF □	W
☑ 3.8M	☑3HD □4HD □	100 W	□ 5600M	□3SA □4SA □3SF □4SF □	W
☑ 7M	☑3HA □4HA □	100 W	□ 10.1G	□3SA □4SA □3SF □4SF □	W
☑ 10M	☑2HC □	100 W	□ 10.4G	□3SA □4SA □3SF □4SF □	W
☑ 14M	☑2HA □	100 W	□ 24G	□	W
☑ 18M	☑3HA □	100 W	□ 47G	□	W
☑ 21M	☑3HA □4HA □	100 W	□ 75G	□	W
☑ 24M	☑3HA □4HA □	100 W	□ 77G	□	W
☑ 28M	☑3VA □4VA □3VF □4VF □	100 W	□ 135G	□	W
□ 50M	□3VA □4VA □3VF □4VF □	W	□		W
□ 144M	□3VA □4VA □3VF □4VF □	W	□		W
□ 430M	□3VA □4VA □3VF □4VF □	W	□4630kHz	A1A	W

14 変更する欄の番号　□3　□5　□8　□11　□12　□13　□16

15 備考
移動する局の場合は、「工事設計書」の免許を受けようとする送信機のすべての台数＿＿＿台
現にアマチュア局を開局しているときは、その免許番号及び呼出符号　免許番号：関A第＿＿＿号　呼出符号：＿＿＿。
過去にアマチュア局を開設していた場合であって、廃止又は失効の日から6ヶ月を経過していないときは、その呼出符号　呼出符号：＿＿＿。

関東版

アマチュア局の無線設備の保証願書

TSS株式会社 殿

私は、アマチュア局の免許申請に係る保証を受けたいので、別紙の書類を添えて申し込みます。

申込の日	年　月　日
電話番号	
FAX番号	
Eメールアドレス	

申込者			
住所（社団の場合は事務所の所在地）	□□□-□□□□		
氏名（社団の場合は代表者の氏名）	㊞	社団の名称（社団の場合に限る）	

免許を申請する無線設備	送信機の名称等	接続するブースタの名称等（ブースタ等を使用している場合のみ）	附属装置の有無（有る場合のみ印）
第 1 送信機	DX-SR8J		□ 有
第 2 送信機			□ 有
第 3 送信機			□ 有
第 4 送信機			□ 有
第 5 送信機			□ 有
第 6 送信機			□ 有
第 7 送信機			□ 有
第 8 送信機			□ 有
第 9 送信機			□ 有
第 10 送信機			□ 有
その他の事項	電波法第３章に規定された条件に合致しています。		

保証料の払込みにかかる証明書の貼付欄

- 専用の払込用紙で払い込まれたときは、受付証明書（払込用紙右端部）をお貼り下さい。
- 汎用の払込用紙で払い込まれたときは、受領証の原本をお貼り下さい。
- 銀行口座に払い込まれた際は、取扱票の原本をお貼り下さい。
- ATM で払い込まれたときは、取扱票の原本をお貼り下さい。
- インターネット利用で払い込まれたときは、確認画面のハードコピーを添付してください。

遵守事項

1 私は、無線設備が電波法第３章の技術基準に適合するよう、維持します。
2 私は、貴社から送付される放送受信障害、安全施設及び業務書類等の調査報告書を、免許後すみやかに提出します。
3 私は、会社が行う管理の適正化及び正常な運用の確保のための調査に協力します。

参考事項

1 設備共用（設備を共用して同時に保証を申し込む者の氏名）

2 その他参考となる事項

ご使用の前に

ご使用上の注意

- ケースを外して内部に手を触れないでください。
  故障の原因になります。
- 直射日光の当たる場所、ほこりの多い所、暖房器具の近くなどでのご使用、および保管はしないでください。
- カーナビ、カーテレビなど他の機器に影響を与える場合には距離を離してご使用ください。
- アンテナは完全に取り付けてお使いください。
- ハイパワーで長時間送信し続けますと、機器が過熱します。お取り扱いには十分注意してください。
- 万一、煙が出たり、異臭がする場合は、電源スイッチをすみやかに切ってください。
  安全を確かめた上で販売店、または最寄りの当社サービス窓口へご連絡ください。

電波の発射前に

ハムバンドの近くでは、多くの業務用無線局が運用されています。これら無線局近くでの電波発信には気を付けてください。

アマチュア無線局が電波法令を遵守していても、思わぬ電波障害が起こることがあります。
移動運用の際には、十分なご配慮をお願いいたします。

使用禁止

主に次のような場所での運用は、原則として禁じられています。運用が必要な場合は各管理者の承認を得てください。

- 航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、業務用無線局周域、および、それらの中継局周辺など。

電波法上の注意

電波法第59条は「何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」とし、第109条で「無線局の取扱い中に係わる無線通信の秘密を漏らし、又は窃用した者は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。」と罰則規定を設けております。更に第109条の2で「暗号（秘話）通信を受信した者が、その暗号通信の秘密を漏らし、又は窃用する目的で、その内容を復元（秘話解除）したときは、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。」と定めておりますので、放送以外の無線通信を傍受される場合は電波法違反とならないよう十分ご注意ください。
本機はアマチュア無線機です。送信するには第2級以上のアマチュア無線技士資格とアマチュア無線局免許が必要です。

安定化電源

・本機に接続する外部電源は、必ず出力電圧が11.7 V～15.8 Vの範囲内でのものを使用してください。
・電源ケーブルの抜き差しは、必ず本体の電源をOFFにしてから行ってください。

5. 申請の仕方

本機は技適証明機でありませんので、無線局の申請に当たっては保証認定で申請を行う必要があります。（技適機種と合わせて申請する場合も保証認定になります。）

保証認定申請時に記載が必要な書類

・保証認定願
・工事設計書
・送信機系統図

別紙記載例ではDX-SR8Jを第1送信機として記載しております。

①保証認定願

DX-SR8J以外の送信機とあわせて申請される場合は、「使用するトランシーバー」の第2送信機以降にその機種を記載してください。

②工事設計書

「発射可能な電波の型式及び周波数の範囲」、「変調方式」、「定格出力」、「終段管」の欄に記載が必要です。「技術基準適合証明番号」は記載しません。
第2送信機以降を申請される場合は、同様に記載してください。技適証明機種の場合は、「技術基準適合証明番号」のみの記載でかまいません。

③送信機系統図

別紙送信機系統図を記載してください。

[注意]

本機は100W機になりますので、そのままでは、第3級アマチュア無線技士による免許申請・移動局としての免許申請はできません。その場合は、内部のＩのジャンパーランドを半田ブリッジしてから申請してください。あわせて、工事設計書の「定格出力」欄には、50Wと記載してください。
尚、改造した後は[50W申請用]の書式と改造個所の写真を添えて提出してください。困難な時はJAIA加盟店が改造と証明を有償で行なわれる場合がありますのでご相談ください。
弊社サービスセンターでも有償で改造と証明書発行のサービスをご提供しております。

③受信部

回路構成	ダブルスーパーヘテロダイン
周波数範囲	0.135MHz~30.0000MHz
受信感度 SSB, CW(S/N 10dB)	0.135~1.8MHz :0dBuV(1uV)
	1.8~30MHz :−12dBuV(0.25uV)
AM(1kHz, 30% 変調)	0.135~1.8MHz :20dBuV(10uV)
	1.8~30MHz :6dBuV(2uV)
FM(12dB SINAD)	28~30MHz :−6dBuV(0.25uV)
選択度 SSB, CW, AM(Narrow)	2.7kHz(−6dB), 4.7kHz(−60dB)
AM, FM	8kHz(−6dB), 30kHz(−50dB)
スプリアス妨害比	70dB以上
低周波出力	2W以上 (8Ω, 10% THD)
RIT範囲	±1.2kHz

→P18は英文取説のP18ページに詳細があることを意味します。

1.各部の名称

①前面パネル →P18

(1)	POWER switch	電源スイッチ
(13)	MAIN tuning dial	メインダイヤル
(14)	RIT control knob	受信周波数微調整つまみ
(15)	IF SHIFT control knob	IFフィルターをシフトして混信除去する
(16)	SQL control knob	スケルチつまみ
(17)	AF gain control knob	音量ボリューム
(18)	PHONE jack	ヘッドホン端子
(19)	SPEAKER jack	外部スピーカー端子

その他のキー操作については次ページをご覧ください。

②背面パネル →P21

(1)	ANTENNA	アンテナ端子
(2)	RELAY	リニアアンプ用リレー端子
(3)	External ALC	リニアアンプ用ALC入力端子
(4)	CW-KEY jack	電鍵接続端子
(5)	ACC	オートアンテナチューナー(EDX-2)用アクセサリ端子
(6)	Power connector	電源ケーブル接続端子
(7)	GND	グランド接続端子

③表示 →P23

(3)	TUNE	オートアンテナチューナーが整合動作中に表示されます。
(4)	SPLIT	スプリット運用中に表示されます。
(13)	LOW	ローパワー送信時に表示されます。
(14)	NB	ノイズブランカー動作中に表示されます。
(15)	Nar	ナローフィルター使用中に表示されます。(SSB、CW、AMモード時)
(16)	T	トーンエンコーダーが有効なときに表示されます。(FMモード時)

4.定格

①一般

変調方式	J3E(LSB,USB), A3E(AM), A1A(CW), F3E(FM)
メモリーチャンネル数	600チャンネル
アンテナ インピーダンス	50Ω
電源	DC13.8V ±15%
アース	一接地
電流消費	受信時 最大1.0A・送信時 最大20A
動作温度範囲	−10℃〜+60℃
周波数安定度	±1ppm
寸法(突起部除く)	240(w)×94(h)×255(d)mm
重量	約4.1kg

②送信部

周波数範囲	1.8100〜1.9125MHz 3.5000〜3.8050MHz 4.6300MHz 7.0000〜7.2000MHz 10.1000〜10.1500MHz 14.0000〜14.3500MHz 18.0680〜18.1680MHz 21.0000〜21.4500MHz 24.8900〜24.9900MHz 28.0000〜29.7000MHz
送信出力 Hi/Low/S-Low	(SSB, CW, FM) 100W/10W/約1W (AM) 40W/4W/約0.4W
不要輻射	−50dB以下(10MHz帯では−45dB以下)
変調方式	SSB, CW:平衡変調 AM :低電力変調 FM :リアクタンス変調
搬送波抑圧	40dB以上
波側帯抑圧	50dB以上(1kHz)
FM最大周波数偏移	±2.5kHz
マイクインピーダンス	300Ω

3.その他

①主な接続

・付属の電源ケーブルを背面の電源端子に接続し、DC13.8V電流容量30Aの定電圧電源につなぎます［赤+、黒−(接地)］。
・マイクは前面パネル左下のマイク端子に接続してください。 →P20
・CWで運用の際は電鍵をKEY端子に差し込んでください。 →P21
・ヒューズは30Aです。 →P86
・アンテナケーブルはアンテナ端子へつないでください。 →P21

②オプションの取り付け方

詳細は英文説明書の以下のページをご参照ください。

オートアンテナチューナー EDX-2 →P90
フロントコントロールキット EDS-17 →P90

③調整個所

英文説明書の以下のページをご参照ください。

カバーの外し方 →P84
マイクゲイン →P85（VR117）
送信出力100Wと50W →P85（Ｉのジャンパーランド）
サイドトーン音量 →P85（VR111）
ビープ音量 →P85（VR109）

④キー操作早見表 →P24

（押さえ時間 1秒以内=● 1秒以上=○）

	単独操作	FUNC点灯中操作
FUNC	●ファンクション機能に入ります ○セットモードに入ります	
V/M	●VFO MODEへの切り換え ○VFO A/B イコール機能	●メモリーバンクの切り換え ○メモリーの書き込み
M/KHz	●MHz、KHz カーソル位置の切り換え	●AGCの切り換え
MODE	●モードの切り換え ○モード UP,DOWN操作可能	●UT/LTの切り換え
RF	●RF ゲインの切り換え ○送信周波数のモニター	●フィルターの切り換え
LOCK	●ダイヤルの操作禁止	●キー及びダイヤルの操作禁止
MULTI	●マルチファンクション機能	●マルチファンクションキー割り当て設定
▲	●MHz、KHz バンド、メモリーのUP	
▼	●MHz、KHz バンド、メモリーのDOWN	
RIT	●TXIT,RITのON/OFF	●TXIT,RITの加算機能
1	●1.9MHz帯呼び出し及び周波数入力1	●VFO A/B切り替え、MEMO □/A/B切り替え
2	●3.5MHz帯呼び出し及び周波数入力2	●メモリー→VFO転送機能
3	●4.6MHz帯呼び出し及び周波数入力3	●メモリークリアー
4	●7MHz帯呼び出し及び周波数入力4	●トーンのON/OFF
5	●10MHz帯呼び出し及び周波数入力5	●スプリット機能ON/OFF
6	●14MHz帯呼び出し及び周波数入力6	●プライオリティー機能ON/OFF
7	●18MHz帯呼び出し及び周波数入力7	●クイックオフセット機能
8	●21MHz帯呼び出し及び周波数入力8	●スキャンタイプの選択、スキャンスタート
9	●24MHz帯呼び出し及び周波数入力9	●ノイズブランカーのON/OFF
0	●28MHz帯呼び出し及び周波数入力0	●送信出力の切り換え
.	●周波数入力デシマル	●アンテナチューナー整合動作スタート
ENT	●周波数入力確定	●アルニュー設定

セットモードの設定　　　→P70

メニュー	初期設定	機　能
00	SSB-0.1	▲/▼キーのモード別周波数ステップの設定
	AM-1.0	
	FM-2.5	
01	PROT-OF	メモリー上書き禁止の設定
02	ACCS-ON	メモリー周波数の一時変更禁止設定
03	SC-2S	タイマースキャンの時間設定
04	B-SCAN	スキャンタイプの設定
05	SSC-50	サーチスキャンの周波数帯域設定
06	SKIP	メモリースキャンのスキップ設定
07	DIMR-32	照明の輝度設定
08	BEEP-ON	ビープ音のON/OFF
09	U/L-ON	USB/LSB自動切り換えのON/OFF
10	AGC-ON	AGC自動切り換えのON/OFF
11	TXIT-ON	TXITのON/OFF
12	EKEY-ON	エレキーのON/OFF
13	WPM-20	エレキースピードの設定
14	PADDL-N	エレキーリバースの設定
15	ST-800	サイドトーン周波数の設定
16	BKIN-AT	CWブレークインの設定
17	RAT-3.0	エレキーレシオの設定
18	T-88.5	トーン周波数の設定
19	SPH-OFF	スピーチコンプレッサーのON/OFF
20	PTT.L-OF	PTTロックのON/OFF
21	APO-OFF	オートパワーオフの時間設定
22	UD-RPT	▲/▼キー長押しの設定
23	FUNC-MN	FUNCキーの設定

※本ページと英文説明書P.95の操作キー/機能対象表をコピーして切り抜いて、運用時に参照すると便利です。

[セットモードの操作]

1) [FUNC]キーを1秒以上押すと上記の様な文字が表示されセットモードに入ります。
2) [▲/▼]又はマイクの[UP/DOWN]キーを押してメニューを選択します。
3) メインダイヤルを回して設定値を選びます。ON/OFFしか選べないものはメインダイヤルを時計/反時計方向に回して切り換えます。
4) 別の項目を設定する時は2~3を繰り返し、設定を反映させて運用モードに戻る時は[▲/▼][UP/DOWN]以外のキーを押します。

2.主な機能

①用語説明

・クイックオフセット

SPLIT状態でFUNCキーを押した後7キーを押すと表示が0.0000になり、そのままダイヤルを回すと送受信の周波数差が表示され、素早くスプリットの設定ができます。

・カーソル

周波数の上に表示される小さい▼マークのことです。

・プライオリティー

メモリーモードで行なうと メモリー 5秒、VFO0.5秒の割合で、VFOモードで行なうと VFO5秒、メモリー 0.5秒の割合で、それぞれスキャンします。

・プログラムスキャン

メモリーナンバー P1とP2に設定した周波数の間をスキャンします。VFO A/Bそれぞれに1ペア使えます。

・CWブレークイン

CW運用時、電鍵 ONで自動的に送信し、OFF後に自動的に受信に戻る機能のことです。

②モードの切り替え　　　→P26

MODEキーを押す毎に、USB, LSB, AM, FM, CWL, CWUからモードを選ぶ事ができます。

③バンドの切り替え　　　→P26

M/KHzキーを押して、▼マークをMHz位置の上で点滅するように合わせます。その後UP/DOWNキーを押す事で、バンド単位のアップダウンができます。

④よりよい受信をするには　→P31

RFキーを押す事で、+10dB~20dBで10dB単位でRFゲインを調整できます。

⑤クローン機能　　　→P69

DX-SR8J（親機）の各種設定やメモリー内容等の状態を別のDX-SR8J（子機）にコピーする事ができます。これには両端に3.5φのステレオプラグがついた3芯ケーブルが必要です。

[手 順]

1) 3芯ケーブルのプラグを親機と子機のSP端子に挿入します。
2) 親機のみMODEキーを押しながら電源をONにするとクローンモードに入ります。
3) 親機のPTTを押します。表示がSD番号となり、データの送出と共に数字が大きくなります。子機側の表示はLD番号です。
4) クローンが成功したら両機の表示はGoodとなります。失敗ですとErrorが表示されますので接続を再確認して最初からやり直してください。

クローンモードから抜け出すには電源を再度投入してください。

ＤＸ－ＳＲ８Ｊ 和文補足説明書

この度はアルインコのＤＸ－ＳＲ８Ｊトランシーバーをお求め頂き、誠にありがとうございます。
本書は、ＤＸ－ＳＲ８Ｊの操作について実用面での補足説明を致します。文中の「Ｐ．ＸＸ」は、英文説明書の関連ページを指します。イラストやチャートなどが掲載されておりますので是非ご参照ください。

注意：
取り扱いに関する注意は製品に同梱の和文簡易説明書（以下和文説明書）に記載されています。異常が発生したときは速やかに電源を切り、弊社製品販売代理店又は弊社サービスセンターにご連絡ください。
本機は3アマ以上の資格でないとお使いになれません。3アマの場合、申請には５０W出力にする改造が必要です。

● 設置、接続、免許申請について：
Ｐ．１３～１７に設置・接続についての説明がイラスト付きで記述されていますのでご参照ください。
無線局免許の申請方法は、和文説明書に記載があります。

操作の概要：
本機の操作概要は、大まかに以下のようになります。
１：ツマミ（ボリューム：ＡＦ／スケルチ/IFシフト/RIT・TXIT）には直接操作しか機能割り当てがありません。
２：メインダイヤルとキーボタン（以下キー）は、ファンクションやセットモードと連動して複数の機能を操作します。キーについては、キーゴムに印字の機能はそのまま押すとその動作を行い、パネル側に印字された機能はファンクション動作時（FUNCキーを一度押して、FUNCを液晶に表示させた状態で別のキーを押す）に操作できるようになります。このファンクションと、セットモードの操作（FUNCキーを１秒ほど押して、数字やローマ字が出る画面を出す）を覚えれば、本機は説明書を見なくてもほとんどの操作ができるようになります。Ｐ．７０～がセットモードの説明です。**和文説明書Ｐ．１１に、操作キーとセットモード機能の早見表が掲載されているので、これを拡大コピーしてオペレーションデスクに常備しておけば、とまどうことは少なくなります。**
３：よく使う周波数や２９ＭＨｚレピーター、お気に入りのラジオ局受信などはメモリーを活用するとよいでしょう。Ｐ．４８～Ｐ．５４がメモリーに関する説明です。Ｐ．５３～からメモリーに7文字までの名前をつける方法を説明しています。
４：本機は通信型受信機としても活用できます。スキャンについては一般のモードの他、スケルチをかけずに使える時間経過スキャン（信号の有無に関係なく、一定の時間が経過すると次のステップやチャンネルに移行する）、プライオリティ、サーチスキャン（特定の周波数帯域を順に切り替

えてスキャン)、プログラムスキャン(上限下限を設定してその間をスキャン)が搭載されており、使い方次第で便利にワッチができます。スキャンの詳細はP.55〜を御覧下さい。
5:英文説明書でよく出てくる「PRESS〜KEY」はXXキーを一回押して放すか、イラストにあるアイコンが出るまで数回ポンポンと押す、「PRESS AND HOLD〜KEY」はXXキーを押したままにする、「TURN〜」はXXを回す、「SELECT〜」はXXを選択する、という意味です。
6:本機は、電源投入時、最後に電源を切ったときのVFO/メモリー状態を記憶して立ち上がりますが、ファンクション未確定(設定途中での切断)やスキャンなど一部の条件・状態は保持されません。バンド毎のAGCや標準電波形式設定の記憶方法は、セットモードで変更できます。

● 操作の練習とリセット

説明を読んでいても、本機の操作に慣れるまでは間違ったり、設定から抜ける方法が分かりにくかったりして困ることがあります。その時は、リセットをおこなってください。P.87〜に説明があるように、本機には完全リセット(電源を切って、FUNCキーを押しながら電源を入れる)、メモリーだけの消去(MHzとRFキーを押しながら電源ON)、機能だけの初期化(V/Mキーを押しながら電源を入れる)、の三つのリセットモードがあります。英文・和文説明書と本書を見ながら操作し、自分なりに説明書類の上にメモを書き加えたり、分からなくなったらリセットを掛けたりして、無線機になじんでから実際に使うメモリーやセットモードの設定を使いやすいようにカスタマイズすると効率的に本機をお使いになれます。

● 基本操作について P.25〜

正しく設置が済んだら、PWR(I/O)キーを押して電源を入れます。ボリュームとスケルチはツマミの操作でレベルを設定します。軽めのトルクですから知らない間に触れていて設定が変わることがあるので注意してください。運用モードはMODEキーを押す毎に変えられますが、MODEキーをしばらく押して表示が点滅に変わったときに▲/▼(以下▲キー)キーまたはマイクのUP/DOWNキー(以下 UP/DOWN キー)を押して選択することもできます。何かキー操作をすると点滅は消えます。

周波数はM/KHzキーを何度か押して点滅▼マークがMHz単位の数字の上に来るようにして▲キーかUP/DOWNキーを操作すると、バンド毎に切り替わります。M/KHzを押して▼を違う場所に移動してから▲キーかUP/DOWNキーを操作すると、MHz単位やKHz単位で周波数を変えられます。また、数字キーを押すことでも運用バンドを選べます。最後にダイヤルを回すかUP/DOWNキーを押して細かい運用周波数にチューンします。

周波数の直接入力をするには、ENTキーを押してから数字キーを押し、最後にENTキーを押して確定します。P.30に例を示したイラストがあるので参考にしてください。

本機はVFOを2つ(A/B)搭載しています。どちらでも同様に運用ができるので、素早くバンドを切り替えて使えます。FUNCキーを押してから1キーを押すとAとBが切り替わります。

送信についてはＰ．３３より説明しています。ＦＵＮＣと0キーで出力切り替えができます。ハムバンド外で送信しようとするとＯＦＦが表示されます。QRP にはスーパーロー設定を自分で出力調整して対応することもできます。

ナローフィルター、受信感度設定を変えるＲＦゲイン、ＡＧＣ設定、CW キーヤー関連などは、それぞれの電波形式での運用説明ページ（Ｃｈａｐｔｅｒ　２）やＰ．６２～の「特殊な機能」に記載されています。簡単な操作なので、すぐにお分かりになれます。同じ操作を繰り返すと機能をオフにできます。

Ｐ．６７のマルチファンクション機能は、ＭＦキーを任意のセットモード操作専用に割り当てるものです。ＦＵＮＣ＋ＭＦキーで★のマークを点滅させ、点滅している間にＦＵＮＣキーを長く押してセットモードを呼び出し、▲マークで好きな機能を選んでからＰＴＴなどキーを押して点滅を止め、ＭＦキーを押すと登録完了です。CW運用が多ければキーイングスピード変更、ＢＣＬなども含めてワッチ時間が多ければスキャン再開条件変更設定、といった運用中にしばしば変更したいセットモード項目を割り当てておくと便利です。ほかにダイヤルやキーのロックなど、簡単で便利な機能説明があるので、この章は必ず目を通してください。

● メモリーモードについて

メモリーモードには、①ＶＦＯ設定をメモリーチャンネルに書き込むシンプレックスＶＦＯ周波数登録、②クイックオフセット使用のスプリット、③ＶＦＯ2つを使うスプリット、の3つがあります。

［シンプレックスＶＦＯ周波数登録］
本機にはＡ／Ｂ／ブランクの3つのバンクにそれぞれ２００ｃｈ、合計６００ｃｈのメモリーを登録できます。
［操作］　Ｐ．４８の絵を参照してください。
１：任意のＶＦＯで周波数、電波形式、フィルタ設定、ＲＦゲイン、ＡＧＣモード、ノイズブランカー、ＣＴＣＳＳトーン、出力を登録したい状態に設定します。
２：ＦＵＮＣキーを押します。メモリー番号が点滅します。（既に書き込まれているときは点灯状態です。そこに上書きすることもできます。セットモードのメニュー０１で上書きを禁止することもできます）
３：Ｖ／Ｍキーを押すごとにＡ／Ｂ／ブランクとバンク表示が変わるので、任意のバンクを選びます。
４：▲キーかＵＰ／ＤＯＷＮキーを操作して、登録したいメモリーチャンネルを選びます。
５：すべてＯＫであれば、Ｖ／Ｍキーを1秒ほど押すとＶＦＯモードに戻り、ビープ音が鳴って登録を終了します。V/M キーを押すと登録したメモリーデータが表示されます。それをベースにメモリーモードでも運用中に周波数を微調したり、RF ゲインを変えたりできますが、電源を入れ直すとオリジナルのデータに戻ります。

【スプリット運用とメモリー】

1：レピーターのようにいつも決まったシフトをかけるときは、②クイックオフセット使用のスプリットを使います。P．42のクイックオフセットを参照してシフト幅を決定、その設定をP．49にある説明のようにメモリー登録操作して使うと便利です。

【操作】

1：任意のVFOで周波数、電波形式、フィルタ設定、RFゲイン、AGCモード、ノイズブランカー、CTCSSトーン、出力を登録したい状態に設定します。
FUNC＋4キーでCTCSSトーンエンコードをオンにできます。セットモードのメニュー18でトーン周波数を選んでおきます。
2：FUNCキーを押してFUNC表示させた後、5キーを押してSPLITを表示させます。
3：FUNCキーを押してFUNC表示させた後、7キーを押してシフト幅を表示させます。初期値は0が並んだ状態です。この状態で▲キーかUP／DOWNキーを押し続けるとシフト方向と幅が変わります。マイナスシフトを掛けるときは▼かDOWN（数字の前に- -が表示），プラスシフトは▲かUPキーを押し続けます。例えばー100KHzシフトのときは- -0．100．00とします。M／KHz以外のキーを押してシフトを確定します。
4：FUNCキーを押して▲キーかUP／DOWNキーを操作、登録したいメモリーチャンネルを選びます。
5：すべてOKであれば、V／Mキーを1秒ほど押すとVFOモードに戻り、ビープ音が鳴って登録を終了します。

パイルアップ時など相手の指定スプリット幅が変わる場合には、③VFO2つを使うスプリット、を使います。P．45にあるように、VFO AとVFO Bにそれぞれ受信･送信の周波数を設定し、FUNC＋5キーでSPLITを表示させて運用します。コールしているときに数キロヘルツずらす、といったことが簡単にできます。解除するにはFUNC＋5キーをもう一度操作します。この設定もP．50のようにメモリーできますが、実際には DX 局がパイルを捌く時にいつも同じ周波数、同じシフトで運用することは非常にまれですから、メモリーしてもあまり意味はありません。それよりもスプリット運用の方法を記憶してその場で操作する方が実用的です。

＊メモリーチャンネルの消去は、消したいチャンネルに合わせてFUNCキーを押し、FUNC表示させた後3キーを押します。メモリー番号が点滅を始めたらOKです。
＊メモリーをすべて消したいときはMHzとRFキーを押しながら電源を入れます。
＊メモリーにある状態をVFOにコピーするときは、FUNCキーを押してから2キーを押し、VFO表示が点滅したら▲キーかUP／DOWNキーを押してコピー先のVFO A／Bを選んでからもう一度2キーを押します。V／MキーでVFOに戻るとそのデータがコピーされています。

● スキャンについて

本機に搭載のスキャンモードについて説明します。

＊ ＦＵＮＣキーを押して、ＦＵＮＣ表示中に8キーを押すとスキャンが始まります。

＊ スキャン中に▲キーかＵＰ／ＤＯＷＮキーを操作するとスキャンの上下方向を変えることができます。

＊ どのモードでスキャンを始めるかはセットモードのメニュー０４で設定します。ＳＥＬＥＣＴを設定すると、ＦＵＮＣ＋８キーを押した後、スキャンタイプが表示されるのでダイヤルや▲キー、ＵＰ／ＤＷＯＮキーを使ってタイプを選んでから8キーを押します。プライオリティスキャンは、後述の操作が必要です。

＊ ダイヤルに触れる、ＰＴＴや操作キーを押す、といったなんらかの操作（▲キーかＵＰ／ＤＯＷＮキーの操作以外）をするとスキャンは止まります。

(1) バンドスキャン：設定したステップで今ＶＦＯ設定されているバンドをスキャンするモードです。Ｐ．５５の図にあるように、例えば２１MHzハムバンド内にいれば２１MHzハムバンド内を周回してスキャンします。２１．４５０MHzを越えたところからスタートすれば、２１．４５０から、次のハムバンドの下限である２４．８９０までの間をスキャンします。

(2) プログラムスキャン：ＶＦＯ ＡとＶＦＯ Ｂにそれぞれ1ペア設定できるモードで、任意の2点間をスキャンします。あらかじめＡ／Ｂどちらかのｖｆｏで、スキャンしたい上限と下限の周波数を設定して、それぞれＰ１とＰ２のメモリーチャンネルに書き込んでからしか動作しません。例えば短波放送２２mバンドの下限 13.570 と上限の 13.870kHz をメモリーしてスキャンするように使います。

(3) サーチスキャン：セットモードで別途設定する一定の幅（５０／１００／２００ＫＨｚ）の間を高速スキャンします。信号が有っても止まりませんし、スケルチの有無に関わらず動作します。スキャン中に▲キーかＵＰ／ＤＯＷＮキーを操作すると次の幅に移動します。Ｐ．５６に図があるので参考にしてください。このモードは信号を探すと言うよりも、自分がこれから運用しようとするバンドがアクティブかどうか、ざっと聞いてみるのに使います。

(4) メモリースキャン：メモリーモードに入ってスキャン操作をすると、メモリーチャンネルに書き込まれているチャンネルをスキャンします。メモリーチャンネル登録してからでないと動作しません。

(5) プライオリティスキャン：ＶＦＯとメモリーを使って、どちらかに主に聞いていたい周波数、もう一方に時々チェックしたい周波数を設定すれば、一定のサイクル（表示周波数側5秒、プライオリティ側０．５秒。但しスケルチを掛けていないと2秒）で交互受信します。スケジュールＱＳＯで相手が出てくるまでラジオ放送を聞いていたい、というようなときに使います。組み合わせはＰ．５７を参照してください。メモリーチャンネル登録してからでないと動作しません。

１：プライオリティ側（短く受信する方）で受信したい周波数をＶＦＯ設定するか、メモリーチャンネルから選びます。

2：V／Mキーを押して反対の運用モード（VFO又はメモリー）に行き、通常受信したい方の周波数を設定します。
3：FUNCキーを押して、6キーを押します。

【スキャンの再開条件について】
セットモードP．73でスキャン再開条件を（A）と（B）、いずれかから選べます。どちらのモードでもスケルチを掛けなくてもスキャンは動作しますが、異なるのは：
（A）設定ではスケルチが閉じているときは高速スキャンして、信号があったらそこで止まって、指定した時間が過ぎたらまた高速スキャンを再開します。スケルチが開いているときは、指定した再開時間刻みでスキャンし、信号があったらそこで止まって、指定した時間が過ぎたら次のチャンネルやステップに移ります。セットモードの（A）設定条件中、OFFは「信号があったらそこで止まりスキャンを再開しない」、0は「信号が無くなるまでスキャンを再開しない」、B0は「信号があってもスキャンを止めない（幅を設定しないサーチスキャンのような状態）」です。
（B）設定ではスケルチの開閉に関係なく指定した時間刻みでスキャンして、信号の有無に関わらず指定した時間が過ぎたら次のワンステップかメモリーチャンネルを一定時間スキャンします。データ通信などを自動巡回ワッチしやすいように、最長30分まで1つのチャンネルをモニターできるよう長めの時間が設定できるようになっています。

● セットモードについて
P．70からはセットモードの説明です。
セットモードの操作は以下の通りです。
1：FUNCキーを1秒以上押すとアルファベットや数字の文字が表示されセットモードになります。VFO表示の右横に2桁の数字が出るのが、セットモードのメニュー番号です。
2：▲/▼キーかマイクのUP／DOWNキーを操作して変更したいメニューを選択します。
3：メインダイヤルを回して好みの設定値を選択します。ON／OFF（OFと表示されることもあります）しか値が無い場合は、ダイヤルを右か左に回すだけです。
4：▲/▼キーかマイクのUP／DOWNキーを操作すると今の値が反映され、次に変更したいメニューが選択できるようになります。
5：同じ操作を繰り返し、セットモードでのカスタマイズを終えたら▲/▼キーかUP／DOWNキー以外（PTTキーが一番便利です）を押してセットモードを終了します。このとき、ビープ音が鳴ります。

セットモードでは、23の項目がカスタマイズできます。内容は本機に添付の和文簡易説明書P.12をご参照ください。

補足：以下、セットモードで注意の要る機能についてのみ説明します。

○　メニュー０１：メモリー上書きの禁止：これは単に書き込み済みのメモリーチャンネルへの上書きを許可するか・しないか、です。この設定にかかわらず、メモリーの消去は行うことができますので注意してください。

○　メニュー０２：メモリーチャンネルデータの一時変更許可：ＯＦ（オフ）設定にすると、メモリーチャンネルに登録のデータはRIT／TXIT以外、一時的に変更することができなくなります。ＯＮで設定を変えられるようにして運用、メモリー内容を変えてしまっても、電源を入れ直すと元のメモリーデータで立ち上がりますから、通常はＯＮ設定で良いでしょう。スケジュールＱＳＯのチャンネルを設定していたのに、うっかりダイヤルをいじってＦズレしていてコールに気が付かなかった…というようなことを防ぐために設けた設定値です。

○　メニュー０３：タイマースキャン設定：（A）の設定では、スケルチを効かせておかないとスキャンしません。信号があってスケルチが開いたらスキャンを停止、設定時間後再開します。（B）はスケルチをかけなくても、信号の有無も関係なしに、決めた時間が経過したら次のチャンネルやステップを受信します。

○　メニュー０４：スキャンボタンを押したとき、どのスキャンを実行するか決めておけます。そのたびにどれを使うか手動で決めたいときはＳＥＬＥＣＴを設定しておきます。ＢＡＮＤはＶＦＯの全チャンネルスキャン、プログラムは別途設定した２チャンネル間のスキャン、サーチはメニュー０５で別途指定した幅（例えば１００ｋｈｚ）で順にスキャン、です。スキャンは他にプライオリティ（気になる１ｃｈを数秒おきに瞬間モニターする）もありますので、Ｐ．５５～のスキャンに関する項目をご参照ください。

○　メニュー０９：ＵＳＢ／ＬＳＢをバンドに合わせて自動設定するかどうか、です。ＯＮだと自動、ＯＦＦだと前に電源を切ったときのモードで立ち上がります。自動ＯＮでもボタン操作でモードを切り替えられますが、電源を入れ直した時には自動設定で立ち上がります。

○　メニュー１９：スピーチコンプレッサ：ＳＰＨ－ＡＬＬではＦＭモードでもコンプレッサが掛かります。通常は使わないのでＳＰＨ－ＯＮかＯＦＦでお使い下さい。

○　メニュー２２：マイクのＵＰ／ＤＯＷＮキーはスキャンのスタートか、キーを押している間だけ周波数などを決まったステップで上下に動かす２つの役目をどちらかに選んで使えます。

○　メニュー２３：ＦＵＮＣキーは、初期値では次にキーを操作するまでファンクションモードを保持しますが、ＡＴを選択すると操作が無いまま５秒立つと自動的にファンクションモードを解除します。

●　その他の機能について

ここでは、本機が搭載するその他の便利な機能について注意点だけ説明します。詳しい操作方法は英文説明書をお読みください。

＊　メモリーネーム：登録したメモリーを文字や数字で表示できます。６桁まで表示できます。登録時、操作を繰り返して７番目まで文字が点滅したら６桁までの入力が完了します。Ｐ．５３～

＊　メモリースキップ：メモリーしたチャンネルをメモリースキャン中に飛ばしたいときに使います。飛ばすメモリーを選び、ＦＵＮＣ＋Ｖ／Ｍキーで小数点が表示されたらＯＫ，同じ操作を繰り返すと解除できます。スキップ設定中のチャンネルもスキャンしたいときはセットモードのメニュー０６でＮＯ　ＳＫＩＰを選びます。Ｐ．６０～

＊　プラスマイナスデルタエフ：RIT／TXITで一時的に送受周波数を変えているとき、その設定をＶＦＯにコピーして、RIT／TXIT機能から抜けるときに使います。RIT／TXIT運用中にＦＵＮＣキーを押してからRITキーを押すだけです。RIT表示の解像度がＶＦＯ表示解像度より低いため、操作を終了すると例えば１．１KHzしかずらしていないように見えたものが実際は１．１５ＫHzずれていた、ということが起こります。Ｐ．６６～

＊　ケーブルクローン：市販のステレオミニプラグ付きケーブルを使って、２台のＤＸ－ＳＲ８Ｊを全く同じ設定にクローンできます。モードキーを押しながら電源を入れるとＣＬＯＮＥと表示がでます。このクローンモードへの入り方はメモリー編集ソフトなどが供給された場合に操作が必要になることがあります。

●　調整について

本機はアマチュア無線機です。従い、工場での調整設定を以下の項目について上級ユーザーが任意に設定変更できる調整ポイントを設けています。これは弊社がユーザーに調整を強制する物ではなく、調整の失敗による弊害や故障はすべてユーザーの責任とし、修理は保証対象外として有償になります。詳細はＰ．８５を御覧ください。尚、一部に電源を入れたまま行うポイントがあります。危険ですから、無線機のメンテナンスに慣れた方以外は絶対に調整を行わず、サービスセンターにご相談ください。測定器や工具が必要な項目もあります。下記以外のＶＲ等は絶対に触らないでください。ＶＲの調整にはセラミックの調整棒を使用し、金属のドライバーはショートの原因になるので絶対に使わないでください。

１：マイクゲイン　ＶＲ１１７　時計回りでゲインが深くなります。

２：ビープ音量　ＶＲ１０９　時計回りで音が大きくなります。

３：サイドトーン音量　ＶＲ１１１　時計回りで音が大きくなります。

４：スーパーLOW出力設定　ＶＲ１２０　時計回りで出力は大きくなります。０．１～２W程度の間で微調整ができます。

５：最高出力設定：ＭＡＸ１００Ｗか５０Ｗかを設定します。Iポイントのランドをハンダでブリッジするかどうかで決まります。

ヒューズの交換はＰ．８６を御覧下さい。必ず電源コードを抜いて行って下さい。

●　アクセサリーについて

弊社のＥＤＸ－２オートチューナー、ＥＤＳ－１７セパレートキット（Ｐ．１５）がオプション設定されています。ＥＤＸ－２の接続はそれに添付の日本語説明書にも詳しく説明があります。又、製造を終了しておりますが、旧製品のＥＤＸ－１アンテナカプラーも電源ケーブルをＥＤＸ－２のポートと同じ場

所に接続することでお使いになれます。

マイクについては、弊社の８ピンコネクターのハンドマイクが全て電気的にはお使いになれますが、インピーダンスやマイクエレメントの違いにより、運用モードによってはかなり音質を損ねることがあります。ＥＭＳ－６４又はＥＭＳ－４１のダイナミックタイプをお使い下さい。マイクインピーダンスは300Ωです。

本機は、市販のモービルブラケットやつり下げハンドルがお使いになれるよう、ネジ穴を付けてあります。適合ネジのサイズはＰ．９１に記載の通りです。短すぎると落下の危険があり、長すぎると内部の基板を損傷する恐れがあるのでネジの種類は厳守してください。適合のブラケットやハンドルについては販売店にご相談ください。

以上